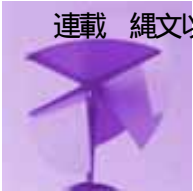


連載 縄文以来の伊達



織獣毛に最も近い羊種

マテリアル・コンサルタント 川島茂信

たか、B.A.LUSTER種は殆ど縮絨しない。

LONG WOOL & LUSTERの主なる羊種は：BLUE FACE LEICESTER、LEICESTER、LINCOLN、TEESWATER、WENSLEYDALE等で、普通の長毛種は36～37ミクロンがFINESTであるが、HOG WOOLは生後1年目に初めて鋏を入れて刈る毛で、毛尖が残っていて極めてSOFTな毛質である。34ミクロン、毛足は6～7INCHと長く強靱である。BRUSHINGするとモヘアとは違った少しもじゃもじゃとした風雅のある起毛をし、大変暖かい。又モヘア、アルパカ、キャメルとの混紡に最適であり、相乗効果も期待できる。近年有名なBLUE FACE LEICESTERは種羊としてDOWN種と交配され、双子が生まれ易いとして重要視されてきた。BLUE FACE LEICESTERのHOG WOOLから英国羊毛の中では一番細い26/7ミクロンが選別され、滑りのあるSILKYな光沢が有り、然もSHORT DOWN種と同じ強い縮絨力を兼ね備え、毛足も長く、世界最高の特質に恵まれた強靱な毛である。

2) LONG WOOL & LUSTER種：世界で一番織獣毛に近い羊毛である。学説によると、パラがセンターに、オルソが同心円状に周囲にあり、羊毛の様に細かいCLIMPは無い。織獣毛と同じ様なゆるやかなカーブを持つ。しかしながら、モヘア等の織獣毛はオルソがセンターに、パラが同心円状に周囲にある。織獣毛と同じく髄は発達し、中空の部分もあって大変暖かく、保温力に富んだ強靱な毛である。

SCALEは羊毛より織獣毛に似た、搦め性の少ない、フェルトしにくい形状でSCALE HEIGHTは普通の羊毛より低い、モヘアと比べては平均0.5ミクロン高く、95%の確率で判別できる。普通の羊毛より光沢や照りはあり、モヘア程の光沢や滑りは無いが、モヘアと良く似ている。英国羊毛であるので、CLIMPは無いが、多雨環境下の防水機能成果が一人前の強い縮絨力がある。

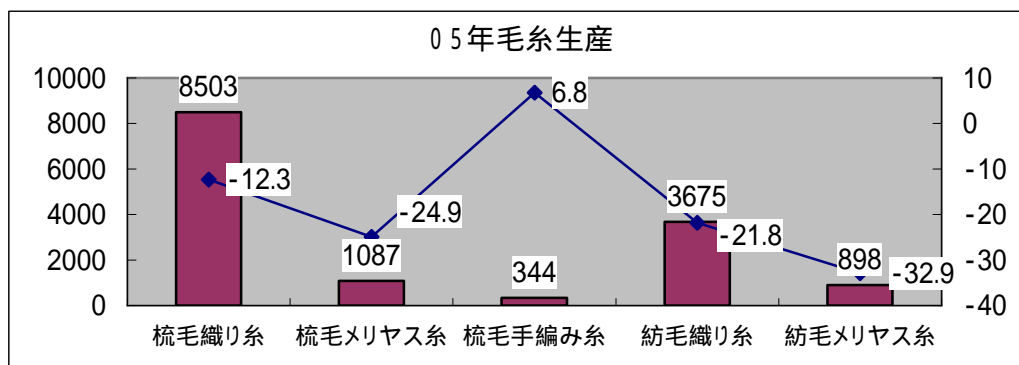
英国のLUSTER種がブエノス・アイレスで長年飼われてきたが、他に交配なく純粋種を保ってきた。乾燥の環境下、防水機能をなくし

＝ 読む・統計 ＝

05年毛糸の需給、生産・需要とも2ケタの減少

羊毛紡績会がまとめた05年の毛糸需給によると、毛糸の生産は梳毛織り糸8503

トン、前年比12.3%減、同メリヤス糸1087トン、同24.3%減、同手編み毛糸33



4トン、同6.8%増、紡毛織り糸3675トン、同21.8%減、同メリヤス糸898トン、同32.8%減で、手編み毛糸を除いて

2ヶタの減産となった。輸入も梳毛糸が1万2467トン、同8.2%減、紡毛糸が739トン、同24.3%減となった。末端市場では厳冬からウール製品の好調が伝えられたが、糸生産段階ではさらなる縮小が続いた。

これに対して需要は梳毛糸内需が1万3492トン、前年比16.5%減、同輸出89

31トン、同12.2%減、紡毛糸内需225トン、同82.8%減、同輸出5282トン、同12.9%減と大きく落ち込んだ。特に紡毛糸はコート好調の掛け声とは裏腹に半減近い落ち込みとなった。

2005年の百貨店（東京地区）の実態

消費不振が続くなか、首都・東京地区の05年百貨店売上高は1兆9095億円で、前年同期比マイナス0.9%と4年連続の前年実績割れとなった。衣料品も同率の減少となったが、紳士服・洋品は1.4%のプラスとなった。

衣料品は全売上高の36%を占め、百貨店における不動の地位を誇った。ファッショングッズを含む身の回り品も13%で、「ファッションは百貨店」を改めて裏付けた。その身の回り品は2.1%の伸びだった。

衣料品の中では、婦人服、用品の売上高は65%と他を圧倒しており、紳士服・用品は23%だった。百貨店では婦人服は紳士服の約3倍の規模である。しかし、紳士服は1.4%ながら前年を9年ぶりに上回り、06年に期待を膨らませた。

なお昨年12月の東京地区百貨店の衣料品売上げは前年同期比5%伸びたが、やはり紳士服は7.7%という伸びだった。

